

## 平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール研究実施報告（第2年次）（概要）

1 研究開発課題名	
	<p>企業の社会的責任（CSR）を全うするプロフェッショナル人材の育成          -21世紀型近江商人育成プランによる、「商業道德」を身に付けた「三方よし」を実践できる          ビジネスリーダーの育成を目指して-</p>
2 研究の概要	
	<p>本研究では、CSRを全うするプロフェッショナル人材の育成を目指し、次の資質・能力を育成する学習プログラムの開発に取り組んだ。</p> <p>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力          (2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力          (3) 多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力          (4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力          (5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</p>
3 平成30年度実施規模	
	<p>1年全学科全クラス、2年選択科目「近江商人探究Ⅱ」「商品開発」履修者、3年全学科全クラスを対象として実施した。なお、SPH特別講座は全校生徒を対象に、近江商人再生プロジェクトや近江八幡市主催の各種ゼミ等への参加は希望者を対象に実施した。</p>
4 研究内容	
○研究計画	
第1年次	<p>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近江商人探究Ⅰ」… 企業の社会的責任（CSR）ならびにコンプライアンス意識を理解・体得するために近江商人の「三方よし」について理解させる。</li> <li>・1年生販売実習… 近江商人の「三方よし」特に「世間よし」が実践できる能力、すなわち社会にとって良い企業活動ができる能力を育てる。</li> <li>・近江商人再生プロジェクト… 企業利益だけでなく、社会全体の利益も考えることが必要であるので、両方をバランスよく追求する能力を育成する。</li> <li>・3年生販売実習（八商マルシェ）… 自発的に倫理観を持った活動ができる能力を育て、責任感、リーダーシップ、CSRを全うする力につなげる。</li> </ul> <p>(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SPH特別講演会… 企業経営におけるCSRと「三方よし」の実際についての知識を習得させる。</li> <li>・各種コンテストへの応募… 「世間よし」を生かした企画力・創造力を育成する。</li> <li>・「商品開発」… 売れる商品やサービスを考える力の育成と、商品や起業に関する関係法令を理解させる。</li> </ul> <p>(3) 多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生国内インターンシップ、海外インターンシップ… 国内や海外のインターンシップ先の従業員の方々やお客様方と接することにより、多様な文化や価値観を理解させる。</li> </ul>

	<p>(4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究「観光基礎講座」… 近江八幡市の歴史的・文化的価値を深く理解させる。</li> <li>・各種ゼミへの参加… 主体的に地域社会に参画できる能力を育成する。</li> </ul> <p>(5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度資格取得… 簿記・会計の専門知識を習得させる。</li> <li>・高大連携講座… ビジネスリーダーに必要な論理的思考力を身に付けさせる。</li> </ul>
第2年次	<p><b>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近江商人探究Ⅱ」… 「商業道德」の理解を通してコンプライアンス意識の必要性を理解するとともに、CSRを全うする基礎力を身に付けさせる。</li> <li>・上記以外の1年目実施事業については、引き続き昨年同様に実施する。</li> </ul> <p><b>(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受発注システムの開発… Web活用能力と社会全体の利益も考えられる能力を同時に育成する。</li> <li>・上記以外の1年目実施事業については、引き続き実施する。</li> </ul> <p><b>(3) 多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外販売実習… グローバルな視野でビジネスを実践できる能力と、多様な文化や価値観を理解しながらビジネスを実践できる能力を育てる。</li> <li>・上記以外の実施事業については、1年目同様に実施する。</li> </ul> <p><b>(4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力</b></p> <p><b>(5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(4)(5)については、1年目同様引き続き実施する。</li> </ul>
第3年次	<p><b>(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「近江商人探究Ⅲ」… 企業の社会的責任(CSR)を全うする力を身に付けさせるために、「リーダーシップ」の必要性を理解させる。</li> <li>・上記以外の取り組みについては2年次と同様に行う。</li> </ul> <p><b>(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力</b></p> <p><b>(3) 多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力</b></p> <p><b>(4) 地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力</b></p> <p><b>(5) 高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(2)～(5)については、2年次と同様の取り組みを行う。</li> </ul>

○平成30年度の教育課程の内容(別紙「平成30年度教育課程表」参照)

本校では、1年次より商業科、情報処理科、国際経済科の3学科に分かれて学習を進めている。

○具体的な研究事項・活動内容

**(1) 高いコンプライアンス意識を持ち企業の社会的責任を全うする力**

・「近江商人探究Ⅰ」…**CSRの概念と「三方よし」の理解**

本校作成の副読本を用いてCSRの概念と近江商人についての理論的な学習を行い、「三方よし」の精神を理解させた。学習内容としては、ア)近江商人の理念と商法、イ)近江商人の「三方よし」の精神、ウ)近江商人の複式簿記、エ)近江商人の家訓や遺訓、オ)NPO法人三方よし研究所の外部講師による講演や施設見学などであった。その後、CSRの概念について、具体的な企業

の CSR と関連付けて分析・考察する学習活動を行った。

また、学校設定科目「近江商人探究Ⅰ」、「近江商人探究Ⅱ」、「近江商人探究Ⅲ」の教育課程上の位置づけの再検討と、各科目の指導内容および指導資料の作成、ならびに各科目の指導内容に係る評価の研究を行い、適正・的確な評価方法について考察を行った。

・ **「近江商人探究Ⅱ」…「商業道德」の理解を通してコンプライアンス意識の必要性を理解する力の育成**

本校作成の副読本を用いて「商業道德」について学習するとともに、コンプライアンス意識の必要性を理解させた。学習内容としては、ア) 勤勉・儉約・正直・堅実・忍耐・自立・陰徳善事などの信用を得るために必要な個人の徳、イ) 企業などの組織に必要な徳、ウ) すべての人々を大切に作る心、エ) 石田梅岩や渋沢栄一が説いた商業道德について、などである。その後、企業不祥事について考えさせるとともに、コンプライアンス意識の必要性を理解させた。

・ **1年生販売実習…コンプライアンス意識の高揚と「三方よし」を実践できる能力の育成**

1年生で学ぶ学校設定科目「近江商人探究Ⅰ」や「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」の知識を実際に活用する機会として、地域を学びのフィールドとした実践的な学習活動を行った。この実習を「近江商人再生プロジェクト」の基礎トレーニングとして位置付け、販売地域の設定、商品及び金銭管理等を生徒に取り組みさせた。1年生全員を対象に、行商による販売実習を各クラス10班体制で実施したが、今年度も生徒は目の前の商品を完売することにとらわれてしまい、コンプライアンス意識を養い「三方よし」の精神を体得するまでは至らなかった。

・ **近江商人再生プロジェクト…個々の企業の利益と同時に、社会全体の利益を考えられる能力の育成**

1～3年の各科目において学習したビジネスに関する理論について、実習を通して実証する学習活動である。各科目のなかで、個人の利益だけを追求するのではなく社会全体の利益も考えることを学習した後、特に課外活動として、近江商人にゆかりのある土地を訪ね、行商を中心とした販売実習及び仕入実習を行い、社会全体の利益を考えられる能力を体得した。販売実習では ICT を効果的に活用し、在庫商品や金銭の管理については、タブレット端末等を使用したクラウド型 POS システムを活用した。「1枚ポートフォリオ」の活用もできた。資金調達については、クラウドファンディング (FAAVO 滋賀) を活用し、実際的な資金調達を目指した。さらに、伊藤忠商事株式会社、丸紅株式会社には、企業研修の実施および企業内販売実習の協力をいただいた。滋賀県のアンテナショップ「ここ滋賀」でも販売実習を行った。

・ **3年生販売実習 (八商マルシェ) …コンプライアンス意識を発揮し、自発的に倫理観をもった活動をするための能力の育成**

CSR を全うするための課題の解決策を見いだす学習活動である。「近江商人再生プロジェクト」に参加した生徒が、販売活動や仕入活動で得たノウハウを他の生徒に還元するとともに、3年生全員が実践的な仕入や販売を体験する機会として、「八商マルシェ」の企画・運営を生徒に行わせた。「課題研究」の授業において準備を行ない、市内7か所での固定販売を11月に実施した。

(2) 主体的に社会に参画し積極的に社会に貢献する力

・ **SPH 特別講演会…企業経営に関する知識の習得**

企業経営における CSR と「三方よし」に関する知識をビジネスの事例と関連付けて考察する学習活動であるが、CSR も「三方よし」も共に社会的な視点が必要であるので、今年度はまちづくりの観点からの特別講座を実施した。今年度も2回の SPH 特別講演会を予定していたが、今夏の猛暑のため会場確保に困難があり7月の講演会は中止とした。

・ **各種コンテストへの応募…企画力・創造力の育成**

生徒の感性や考え方をもとにビジネスに関する課題の解決を目指し、企画力・創造力を育てる学習活動として、日本政策金融公庫のビジネスプラングランプリ等への応募を行った。今年度は、昨年度以上に「世間よし」やソーシャルビジネスをアイデアの中に入れるよう指導した。

・ **「商品開発」…商品開発及び商品と起業についての法令に関する知識の習得**

商品を企画・開発し、流通させるために必要な知識と技術、商品開発に必要なデザインに関する知識と技術及び知的財産権に関する知識を体験的に習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させた。また、消費者の視点に立って商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てた。県内のマテリアルハンドリングに関する企業の商品見学も実施した。

・ **Web 流通システム構築…Web 活用能力の育成**

ビジネス情報管理では、Web の仕組みを理解させ、セキュリティにも配慮し有効活用できるような流通システムを構築・活用できるようサーバサイドを中心とした内容に取り組みさせた。またプログラム開発では、情報機器の有効な利活用を念頭に、操作端末の OS に左右されない、利用者の視点に立った、フロントエンドを中心に組み合わせた。それぞれの実習を通して、活用能力の育成だけでなく、社会全体の利益も考えられる能力を同時に育成することを目的とした。

(3) **多様な文化や価値観を理解し、他者の存在を認め他者と協働し、グローバルに活躍できる力**

・ **1年生国内インターンシップ…多様な価値観を理解する能力の育成**

1年生全員を対象としたインターンシップでは、企業・商店内での仕事やお客様への対応などを通して多様な価値観を理解し、広い視野に立った行動をすることができる能力を育てた。

・ **海外インターンシップ…多様な価値観を理解する能力の育成**

今年度の海外インターンシップも2年生国際経済科の生徒を対象に希望者を募り実施した。ベトナムでのインターンシップを通して、多様な価値観を理解する能力を育てることができた。

・ **海外販売実習…多様な文化や価値観のなかでビジネスを実践する力の育成**

今年度から海外販売実習を2年生商業科と情報処理科の生徒を対象に希望者を募り実施した。シンガポールに進出している日本企業の商品を販売することを通して、多様な文化や価値観のなかでビジネスを実践する力を育てることができた。なお、海外インターンシップと海外販売実習は、一部の生徒しか参加できないため、学んだ内容については SPH 成果発表会を利用して参加生徒の学びを全生徒に還元したり、いくつかの授業のなかで報告して他の生徒へ還元した。

(4) **地域の伝統・歴史・文化を理解し、その良さを認識し、地域の一員として地域創生に貢献できる力**

・ **課題研究「観光基礎講座」…地域の歴史的・文化的価値の理解**

学校近くにある八幡堀周辺の実地調査を行い、近江八幡市の歴史的・文化的価値を深く理解し、その価値を観光や商品開発に活用できる能力を育成した。また、近江八幡市の歴史的・文化的価値を広く国内外に発信できるような取り組みについても考えさせた。近江八幡観光物産協会から講演に来ていただいた。

・ **各種ゼミへの参加…地域に貢献できる能力の育成**

近江八幡市と連携し、近江八幡未来づくりキャンパスに参加し、地域創生・地域づくりについての学びを深めた。特に、まちなかゼミや地域資源活用塾への参加を通じて地域創生の手助けをしていくとともに、地域経済社会のビジネスリーダーとして地域に貢献できる能力を育成した。

(5) **高度な専門知識を活用し、説明責任を果たせる力**

・ **高度資格取得…会計責任を果たすための高度な専門知識の育成**

全国商業高等学校協会（全商）主催の各種検定で3種目以上の1級、日本商工会議所（日商）主催の簿記検定1級など、高度な資格取得にチャレンジさせた。早朝や放課後の補習を通して、学習習慣の定着化をはかった。

・ **高大連携講座…専門家として活躍するために必要な意識の育成**

説明責任を果たせる能力を身に付けさせるために滋賀大学との連携講座を課題研究に開設し、企業不祥事やソーシャルビジネスについて学習を行った。また、高崎商科大学とも連携しネットを通して簿記会計の学習を深め、財務諸表で企業の会計処理を説明できる能力を身に付けた。

## 5 研究の成果と課題

### ○研究成果の普及方法

- ・実教出版の2019年4月号『商業教育資料』に「近江商人再生プロジェクト」に関する報告文を掲載していただく。
- ・全国の商業高校と滋賀県内の各高校へは、研究実績報告書ならびに県内民放の映像や「近江商人探究Ⅱ」の冊子原稿を入れたDVD-Rを送付する。
- ・本校のホームページに「近江商人探究Ⅱ」の冊子原稿や発行済みのSPH通信を掲載した。
- ・平成30年度滋賀県高等学校等教育研究大会で「SPH研究指定校としての取組について」と題して発表した。
- ・普及状況については、本校に視察のために来校された学校が1校あった。また、「近江商人再生プロジェクト」において新潟商業高校と若松商業高校の2校と交流を行うとともに、行程中に高岡商業高校と栃木商業高校が実践の様子を見学に来られた。

### ○実施による効果とその評価

- ・昨年度の問題点と課題については、以下のように改善した。
  - ①学校全体としての取組を推進していくための体制作りが不十分だという問題点と課題があったので、今年度は8つの実行委員会を作りメンバーの構成にも配慮して実施に当たった。さらに、SPH推進室のメンバーはすべての実行委員会に属した。
  - ②昨年度は評価研究が不十分であることが問題点であり課題であった。今年度、ルーブリックによる評価表を大学の先生のご指導のもと大幅に改定した。近江商人探究、販売実習、商品開発、海外実習の4つのカテゴリで共通して使える評価表を作成した。
  - ③各事業において反省点を洗い出し、次年度に向けてさらなる改良を加えていくという課題については、事業ごとに可能な限り担当者が改善を加えて実施した。
- ・文科省生徒向け共通アンケートの4項目すべてにわたり「思う」「どちらかと言えば思う」が8割～9割と高い割合であり、各事業に対する満足度が高かった。
- ・事業終了後に書かせた生徒の感想文にも「事業を通して成長したと思う」「事業をおこなって多くのことを学んだ」「素晴らしい体験が出来た」という意見が多く、各事業に対する満足度の高さはもとより、生徒の内面に大きな変容があったことがうかがえる。
- ・外部機関等向けアンケート結果では3つの項目すべてで「思う」「どちらかと言えば思う」が80%以上であり、高評価をいただいた。
- ・文科省教員向け共通アンケート結果からも生徒と学校の変化が読み取れる。①生徒の変化、③学校全体の変化の2項目で「思う」「どちらかと言えば思う」が85%以上であった。
- ・本校の教員アンケートにおいて次の点で評価がなされていた。
  - ①実習の機会が増加したため、今まで以上に「卒業してからすぐに使える力」が身につけさせられたのではないかと。
  - ②他校にはない取り組みの実施は、本校の特に商業高校としての教育力の向上および魅力向上に資するものである。1年生から取り組みを開始しているのも生徒にとって良い効果をもたらしていると考えられる。授業だけでなく実習や体験学習などを通じて、実践力を養成していく取り組みは、生徒に「本物」の体験を提供できる貴重なものとなっており、とてもよい。
- ・今年度実施したそれぞれの学習効果は以下の通りである。（資質・能力の(1)～(5)に対応)  
【1】「近江商人探究Ⅰ」のルーブリックによる自己評価においてすべての項目で肯定的な回答が増加した(評価平均 1.64→2.46)。「三方よしを心に刻み込みました。素晴らしい考えをもった近江商人は誇りです」「利益だけの追求は自己満足でしかない。世間よしの商いの大切さがわかった」という感想があった。「近江商人探究Ⅱ」を学習した生徒について、3年間調査アンケートの結果から「1. 大変ある」の割合が多かったのは「社会貢献(探究Ⅱ25%、他科目20%)」や「他者への協力(探究Ⅱ31%、他科目26%)」の項目で、近江商人の陰徳

善事を学習している影響だと考えられる。さらに「1. 大変ある」の割合が多かったのは、「法令遵守(探究Ⅱ62%、他科目52%)」や「同じ間違いをしない(探究Ⅱ33%、他科目20%)」の項目で、CSRを実践しようという表れであるとともに、商業道徳を学習することによって過去に生きた近江商人との深い対話があったのだろうと思われる。「1年生販売実習」後の生徒感想文には「社会で生きて行くために必要な責任感や楽しさ、喜びを知ることができた」「6軒以上連続で断られたときは心が折れたが、買っていただいた時はすごくうれしかった」という感想が見られた。特に研究成果が現れたのが「近江商人再生プロジェクト」においてである。「近江商人探究Ⅰ」を学習したことで、生徒により多少の差はあるものの「世間よし」を探究する姿勢を持った生徒がSPH指定前よりも増えたと感じる。理論と実践が噛み合ってきているように思われる。「3年生販売実習」後の生徒感想文では「社会的責任を全うできる人間になるために、見失いがちな「世間よし」を考えた行動をしていきたい」と述べており、「世間よし」を実践する基礎的能力を養うことができたと言える。

【2】「各種コンテスト」への応募成果としては、しがニュービジネスプランコンテスト2018の高校生の部で唯一の決勝大会発表者として、ビジネスプランの内容が評価された本校3年女子生徒が選出され出場した。「商品開発」では5種類のキャラクター商品を開発した。

【3】「国内・海外インターンシップ」や「海外販売実習」を通して、働くことの厳しさや社会人の持つ価値観に触れることができた。特に海外での実習では、事後の感想文で「言葉の壁などでお客様とうまくコミュニケーションをとれなかったこともあったので、語学力やコミュニケーション能力の大切さを肌で感じた」と述べていた。自分とは異なる価値観の中で、理解する能力の必要性を身に付けさせることができた。

【4】「観光基礎」講座受講者は20名と少数であったが、文科省の事後アンケートでは「学ぶ意欲」や「行動力」に対する肯定的回答が90%以上と高い割合であった。また、近江八幡未来づくりキャンパスに参加し、地域創生・地域づくりについての学びを深め、地域経済社会のビジネスリーダーとして地域に貢献できる能力を育成した。

【5】「高度資格取得」では、対策講座を行った結果、高度資格取得者数が昨年度と同じ程度(全商3冠78→73名、日商簿記1級合格者1名)であったことは一定の成果である。また、滋賀大学との連携講座では、大学の3名の先生に8回の連携講座を担当していただき、企業不祥事やソーシャルビジネスについての講義を行なっていただきCSRについて学習を深めた。さらに、高崎商科大学との連携講座では、説明責任を果たせる能力も身に付けさせた。

以上の【1】～【5】より、本校で開発している学習プログラムは概ねその効果が表れていると思われる。しかし、より高い能力を身に付けさせるためには改善や工夫が必要な部分もあるので、来年度の課題として取り組みたい。

#### ○実施上の問題点と今後の課題

- ・本校の教員アンケートより、次の4点の問題点と課題が指摘された。
  - ①商業科の内容の中で普通教科と共通する部分に、普通教科の先生がもっと積極的に入って来てもらえるシステムを作るべきである。
  - ②販売実習などは、生徒は一生懸命やっていたが、生徒の準備が不十分なまま実施してしまっている部分もあり少しもったいない。商業の基礎的な仕入とか商品管理、利益のことをしっかり学習させて「商業科目全体」の底上げにつなげるべきだ。
  - ③担当の先生方の負担になっている仕入や販売後の商品管理も生徒に負担させた方が、生徒の販売意識や責任感を高められる。
  - ④2年目として1年目からの変化をあまり感じないので、3年目集大成としての教員・生徒の取り組みがあると良い。
- ・特に、近江商人再生プロジェクトにおいては、他校でも実現可能な日数や実施方法、料金などについて研究することが課題である。